

2014年（平成26年）10月3日（金曜日）

博 報 賞

教育活性化部門で受賞

釈迦内サンフラワープロジェクト

ヒマワリで 文科相奨励賞も同時に

大館市でヒマワリを活用したキャリア教育の実践に取り組んでいる釈迦内サンフラワープロジェクト



児童と地域住民が協力して8月24日に行われた収穫作業の様子（大館市釈迦内小で）

クト実行委員会（日景賢 悟実行委員長）は、教育現場で尽力する個人・団体を顕彰する第45回博報賞の教育活性化部門に選ばれた。同時に、文部科学大臣奨励賞も同時受賞することになった。

博報賞は、博報財団（東京都）が教育現場の優れた実践活動などに対し、国語・日本語教育、特別支援教育、日本文化理解教育、国際文化理解教育、教育活性化の5部門に分けて贈っている。今回は83件の推薦があり、団体13件、個人3件

を選出。このうち3件は、特に奨励に値するとして文部科学大臣奨励賞に選ばれた。

同実行委は、新しい教育テーマの開発や学校以外の学び場づくりといった人間力を育てる実践活動が対象の教育活性化部門と同奨励賞の受賞が決まった。今年度の受賞は県内で唯一。同実行委は、22年に釈迦内小の4年生が取り組んだ「ひまわり油大作戦」をきっかけとして23年に発足。同校を中核に家庭や地域が一体となり、ヒマワリの栽培から収穫、商品化、祭典などでの販売といった活動を展開。実践的なキャリア教育と地域活性化に努めている。

今回は市教育委員会から「学校を核とした地域を巻き込んだ活動が地域に希望と活力を与え、ふるさとキャリア教育の先駆的役割を果たしている」として博報賞に推薦された。

審査員には「古くから地域で大切にされてきたヒマワリをキーワードに未来を担う子どもたちを中心に据え、学校や地域住民が一致協力して取り組んだユニークで夢のある実践」と高い評価を受けた。同実行委副委員長で同校の三浦栄一校長は「子どもと大人が一緒になつて汗を流し、絆と笑顔を

つくっている取り組み。大きな賞を同時にいただくことは大変に喜ばしく、これからの活動の励みにもなる」と喜びを語った。

同校では、ヒマワリの写真をテーマとした川柳コンテストを7日に開催するほか、本場大館きりたんぼまつりや大館圏域産業祭などの会場で、ヒマワリ油やヒマワリ茶の販売活動を計画。今後は観光資源としての活用も視野に活動していきたいとしている。

贈呈式は、11月7日に東京都千代田区の本工業倶楽部で行われる。同実行委から日景委員長ら3人が出席する予定。